

まなびや

福井出身の二人の国文学者

明治後期の教育を高めた国文学者

芳賀矢一

はが・やいち



▼一八六七〜一九二七・福井市出身、東京帝国大学教授、国学院大学学長、国文学者。文献を丁寧に考証し、民族や文化を研究する手法で、近代的国文学の基礎を築く。国定教科書調査員、編纂委員長として国語教育の整備に貢献。

橋本進吉

はしもと・しんきち

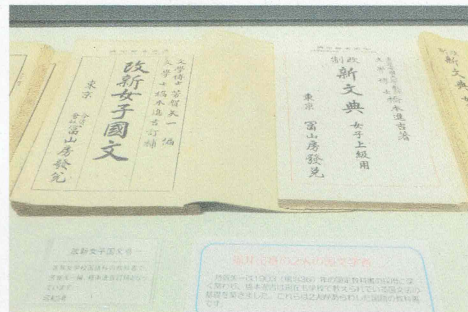


▼一八八二〜一九四五・敦賀市出身、国語学者、東京帝国大学教授。古代の仮名遣いを研究し、過去から現在への日本語の移り変わりを解明。また、文節によって言葉の構成を整理し、現代の文法のもととなる橋本文法を確立。

千年以上の永い時間スケールで日本語を探究した

共著教科書

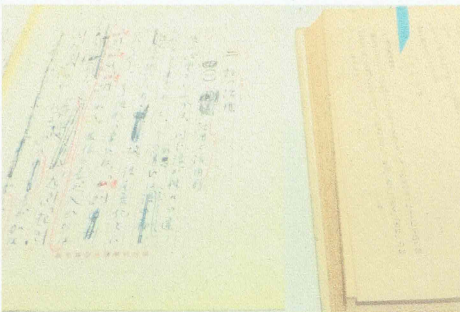
福井出身、芳賀矢一編、橋本進吉訂補の文部省検定教科書



改新女子国文巻一(昭和5年)

新発見資料

昨年東大国語研究室から約70年ぶりに、橋本進吉の貴重な直筆原稿が発見されました。



国語法「語の活用」原稿(昭和9年)

教科書編纂と♪ 文部省唱歌制定

文部省唱歌とは、明治から昭和にかけて文部省が編纂した、尋常小学校、高等小学校、国民学校及び学制改革後の小学校の唱歌、芸能科音楽の教科書に掲載された楽曲の総称です。唱歌の中には『故郷』、『春の小川』、『朧月夜』などのように、現代の日本においても広く愛唱されている曲もあります。

当時は、個々の作詞・作曲者を出さず「文部省唱歌」とだけ表記している教科書・歌集もありますが、福井出身の国文学者芳賀矢一は歌詞の校閲に深く関わり、自ら「三才女」「雪」「鎌倉」等を作詞するなど、唱歌の制定と普及に尽力しました。

文部省唱歌

(※赤字は現在共通教材として全部の教科書に掲載)

仰げば尊し 青葉 赤とんぼ 秋草 秋の山 朝顔 朝の歌 朝日は昇りぬ 池の鯉 一番星みつけた いてふ いなかの四季 犬 うさぎ※ 牛若丸 うちの子ねこ 海※ 梅に鶯 浦島太郎 近江八景 おきやがりこぼし お手玉 おぼろ月夜※ 親の恩 蚕 蛙と蜘蛛 案山子 かがやく光 かくれんぼ※ 影法師	風 かぞへ歌 かたつむり※ 加藤清正 鎌倉 からす 雁(かり／がん) 川中島 昔公 ガクカウ(学校) 菊の香 岸の桜 木の芽 霧 金魚 漁船 雲 鯉のぼり※ 子馬 櫻 薩摩守 四季の雨 露 出征兵士 スキーの歌※ 砂遊び 赤道越えて 瀬戸内海 蝉 卒業生を送る歌	卒業の歌 體練の歌 田植 満 たけがけ 竹の子 たこの歌 田道間守 大東亜 大塔宮 茶摘※ ツキ 燕 つみ木 時計の歌 豊臣秀吉 取り入れ 鳥と花 長柄堤の訣別 那須与一 夏の月 夏休 何事も精神 波 鳴門 なわとび 虹 日光山 二宮金次郎 日本海海戦	日本の国 入営を送る 人形 忍耐 納涼 野分 羽衣 蓮池 八幡太郎 鳩 花まつり 植生の宿 母の心 春が来た※ 春の小川※ 飛行機 無邪 日のまる※ ひばり ひよこ 鶴越 広瀬中佐 風鈴 藤の花 ふじの山※ 故郷※ 冬景色※ 冬の夜 僕の弟 舞へや歌へや	牧場の朝※ 水車 虫 御代の栄 麦まき 虫のこえ※ 村祭 村の鍛冶屋 餅つき 桃太郎 餅つき 森の歌 靖国神社 山雀 八岐の大蛇 山に登りて 夕立 ゆうやけこやけ 雪 雪が踊る 雪合戦 夢 ラヂオ 私のうち 我等の村 我は海の子※
---	--	---	--	--